



爆乳新人アイドルが  
トントン拍子でAV墮ち♡

「お疲れ様でした！」

「お疲れ様々。」

ライブよかったよ！リオナちゃん！

「ありがとうございますー！」



私は新人アイドル、リオナ。十八歳！  
個人でアイドル活動していたところをスカウトされて  
最近メジャーデビューしました。



まだ小さなライブとかしかやったことないけれど、  
どんどん活動の幅を広げて有名になるのが目標です！

「ナンノハニー。」

「アハハハ。」

誰だろう？



「リオナちゃんお疲れー。  
ライブよかったよー♥」

「あっ○○さん♥」

「見に来てくれたんですね♥」



この人は大手芸能会社のプロデューサーさんです。  
デビューして間もない私に色々お仕事をくださるとってもいい人です。



もちろん、タダでお仕事をくれる訳ではありませんけどね・・・♡

「新しい衣装似合ってるねー♥」

「ありがとうございます♥」



「でね、良い仕事があるんだけどさあ♥  
紹介するかわりに・・・いいよね？  
リオナちゃん♥」

「・・・はい♥」

「失礼します♥」

ヌ  
ア  
ン  
♥

「おおっ♥

やっぱリオナちゃんのおっぱいすごいなー♥

俺のチンポをずっぽり挟めるんだもん♥

芸能界イチの爆乳アイドルだわ♥♥」



「新しい衣装エロイよね♥

ライブ中リオナちゃんが動いたたびにこのデカ乳がぶるんぶるん揺れてさあ♥  
君のファンもライブ終わった後トイレに駆け込んで抜いたりしてw

おちゅっ♡

「もおっ♥

何言ってるんですかあ♥

「興奮しちゃうくせに♥

リオナちゃんアイドルなのに  
すっごくエッチな娘だもんね♥

「うう・・・♥」

おちゅっ♡



「いじわるはダメですっ♡♡」

「くおツツ♡♡  
そんな激しくシゴかれるとツツ♡」





「ふう……♡」

「○○さん♡……♡」

その……良いお仕事するのは……♡」

ドンドンドン……

「まあそう焦らないの♡」

そのエロ衣装もうちょっと堪能させてよ♡」

「……分かりました♡」



「あっあの……〇〇さん。その……ゴムは……。」

「紹介しようかと思ってる仕事、  
今までで一番良い仕事なんだよね。  
一気に有名になっちゃうかも♥」

「ッ……♥」

「じゃあ、挿れるよ♥」

「は……♥」



「んんッ♡♡」

「あー♡」

「リオナちゃんの生マン」

「ちばッッッ♡♡」



「若いアイドルの女の子はやっぱりいいなー♥  
めっちゃ運動してるからマンコの締まり最高♥♥  
そこらの女とは別物だわ♥」

「んっっ♥ああっっ♥♥♥」

「乳揺れやばっ♥

「リオナちゃんは若いアイドルの中でも別格だよ♥♥」



「あーイクツツ♥♥  
中に出すよツツ♥♥」

「な、ナカ・・・♥」

(本当はイヤだけど・・・  
有名になるためだもんっ・・・♥)

「はいッ・・・♥ナカに出してくださいッ・・・♥」

グ  
ホ  
ツ

グ  
ホ  
ツ





「あー・・・生ナカ最高ッ・・・♥」

「あの・・・♥」

「分かってるよ♥」

君のマネージャーに

この後連絡しとくね♥」

「はい♥ありがとうございます♥」

これで売れっ子アイドルに二歩近づける・・・よね・・・♥

ゴッポッ



「お疲れ様です。」

「……きやあー!!」

「はあ♥♥はあ……♥リオナちゃん♥

「ウチの会社の新作ビールの撮影会お疲れ様♥」

キムツ

「あっはい……♥

「じゃ、社長さん？」

「あのっ……何して……♥」

ム

ム

キムツ



「〇〇さんから君を紹介されてね♥  
撮影会後君の身体を好き放題させてくれるなら  
起用しても良いって言ったんだ♥  
快く了承してくれたよ♥」

「んっ♥  
そ、そうだったんですね♥  
(聞いてないよお〜)」



「リオナちゃん写真で見た通り  
すっごく良い身体してるねえ♥  
太ももにちんぽ入れるだけですごく気持ちいいよ♥」

「あッ・・・♥や・・・♥」



んぎゅッ  
ズボッ

んぎゅッ

ズボッ

「あーっ……♡」

「うっ……♡」

ゴキウ

ゴキウ



「私は硬さと弾数には自信があるんだ  
存分に楽しませてもらうよ♥」

んぎゅんぎゅん

「……はい……♥」

（びっくりしたけど、これもお仕事だもんね……♥）

シロク……



「おお〜♡下から見ると迫力のあるおっぱいだなあ♡」

「そうなんですか?♡」

「ああ、君の身体は天性の才能だね♡

しっかりとその才能を生かしてくれ♡」

「……では失礼しますね……♡」



「んんんんん♡♡♡」

「おま。。。。SSU。。。。♡」

「社長さんのおちんぽすい。。。。♡  
ガチガチっ。。。。♡」



「あッ♡はんツツ♡んんツツ♡♡♡」

「♡♡♡♡♡」

ズレズレ

ズレズレ



「十代とは思えないスケベな腰使いだなあッ♡♡♡」

ズレズレ

ズレズレ

ズレズレ

ズレズレ

「んあツツ♥あツツ♥」

「気持ちよさそうにしてっ……♥  
どれ、私も下から突いてあげよう♥」

「あツツ♥ダメですうツ……♥」

「おおツツ♥締めりがツツ♥♥」





「社長さんのおちんぽすっぴい。。。。♡」

はーはー

「全くたまらんなあ♡♡  
まだまだちんぽがギンギンに元気だよ♡♡」

はーはー。。。。

はーはー





「またイクのかツツ♥このドスケベ淫乱アイドルツツ♥」

「ああツツ♥イクツツ♥いつちやうらツツ♥」





ムムムムム

ムムム

ムムムムムムムム

ムムムムム

ムムムム

ムムム

ムムム

ムムム





「♡♡♡♡♡」

「ハハハ」

「ハ」

「ハ」

「ハ」

「ハ」

「ハ」

「ハ」



あーっ  
あーっ

ド  
ロ  
ッ

「はー♥はー♥  
。。。リオナちゃん、  
また今度ウチで仕事があれば来なさい♥」

「はい。。。♥ぜひい。。。♥」

グ  
グ  
グ



今日は痴漢撲滅強化月間という電車広告用の  
撮影会と聞いていたのですが・・・。

「あのっ♡ご、これはいつたい……。」

「あーそれっぽく拒否する演技してくれる？  
痴漢撲滅がテーマな訳だからさ」

「えっと……は、はい……。」



ギョッ

ギョッ

（ど、どうすればいいんだらう……。  
激しく抵抗するのはアイドルっぽくないよね……？）

「や……やめてください……♡」  
「……」

(あうう……♡)  
お尻に硬いのがあ……♡)  
「ん……困ります……♡」

ムニャ

ギョム……

ゴッ  
ゴッ

グンッ  
グンッ



「リオナちゃん。」

「そんなんじゃ全然痴漢撲滅できないよー?」

「ぐっごめんなさいっ……♡」

「そんな抵抗じゃ

逆にエスカレートしちゃうよー?

痴漢役の方、もっとやっっちゃっていつすよ

「え……?」

ドキッ  
ジュン

ムキッ  
ムキッ

ゴリッ  
ムン

ギン  
ギン

グン  
グン



「やっやめっ♡あんツ♡あッ♡」

「やめてっ・・・♡くださっ・・・♡  
んんツツ♡」

（こんなのもう痴漢の域じゃないよお・・・♡  
なんなのこの撮影会い・・・♡）

ズ  
グ  
グ

ガ  
キ  
ツ



「やっ♥あツツ♥  
ダメえツツ♥♥」

「.....」

「.....」

「あのっ♥これっつ♥  
変じゃないですかっ?♥♥」





はっ♡

はっ♡

「う……そ……♡」

「いいねーリオナちゃん♡」

「じゃあもつと制服乱れるくらいガッツリいっっちゃおっかー♡」

「(これも……アイドルのお仕事なの……?)」

どっどっ…

どっどっ



「いやッッッ♥♥♥  
ダメえッッッ♥♥♥」

「イへッッッ♥♥♥  
イっちやうッッッ♥♥♥  
イ♥♥♥」





「ふう……。お疲れさまでした。」

「お疲れ様でしたー。」

「すげーエロくてよかったよーリオナちゃん♥」

「。。。は。。。う。。。♥」

「これで。。。よかったのかな。。。?」

「頭ぼーつとしてもうよく分かんないや。。。」

「はーん。。。。」

「はーん。。。。」



「リオナちゃん、さっきはありがとうね♥  
すごいエロくて気持ちよかったよ♥」

「あ……はい……ありがとうございます……」  
(さっきの痴漢役の人だ……)

「僕ね、○○会社の社長なんだ。これ名刺。」

「えっそうなんですか!？」

「お、お名刺頂戴いたします……」

(○○会社って超大手の……AV会社だよ……)

「リオナちゃん、君僕の会社ですつと前から目え付けててさあ♥  
すげーエロイアイドルって聞いてたけど、ここまでとは思わなかったよ♥」

「は、はあ……」

「単刀直入に言うけど、ウチの会社の女優としてデビューしない？」

「え……!？」

「そ、それってAV女優になるってことですよね……?」

「まあそうだね。」

「君の会社のお偉いさんには話し通じてて、もうオツケーもらってるんだよねー」

「え……?」

「リオナが一番輝ける場所だって言ってたよ?」

「そ……そうなんですか……?」

「うん。」

「ウチの会社でデビューしたら即有名になれるよ♡  
とりあえず考えてみて、連絡待ってるからさ!」

「えっと……は、はい……。」

（ど……どうしよう……。）

「私はアイドルなのに……でも……」

「即有名になれる……私が一番輝ける場所……」

「名前は？」

「リオです・・・♡」

「年齢は？」

「十八です♡」

「おー♡若いねー♡」

グニッ

ムギョッ



「おっぱいすげえ大きいよねー♥  
何カップあんの?」

「Kカップです・・・♥」

「デッカ♥♥」

「おっぱいで感じちゃうタイプ?」

「んっ・・・♥」

「はい・・・♥」

「エロいなー♥」

モニョッ

キュッ

んっ

んっ

「その服かわいいね  
アイドルみたい♥」

「えっと・・・♥」

「その可愛い恰好で  
これから何するか・・・。  
分かる？リオちゃん♥」



ドキッ

ん

グニッ

ムキユッ

ッ

ん

ん

「……エッチなこと……  
ですかね……♡」

「エッチな事って？  
どんなこと？♡」

「……セックスです……♡」

「正解♡」

「じゃあさっそく始めよっか。  
リオちゃん♡」

「……はい♡」

「キャッ  
キャッ」

「ギョ  
〜」

「グ  
〜」





「あツツ♥んんツツ♥」

(こんなにくささんのおちんぽ・・・  
頭おかしくなりそお・・・♥)

ハロキョウ

ハロキョウ

ハロキョウ

ハロキョウ

ハロキョウ

ズグッ

グッホッ









この私のAVデビュー作、

「元アイドルの爆乳美少女♥全人類待望のAVデビュー」は  
とっても売れたらしく、新人アイドル・リオナ改め  
新人AV女優・リオは一躍有名になりました♥

END